

平成 30 年度

社会実装に向けたロボット工学 ～ロボティクスソリューション～

ロボット工学分野での最先端事例として人工知能、海洋工学、宇宙工学分野を取り上げ、今後期待されるロボット研究開発の指針を紹介するとともに、社会実装に向けたロボティクスソリューションに関する講演会を企画いたしました。各分野に興味を持つ方々や、事業参入を目指す事業者にとっても有意義な情報交換会となると期待しております。万障お繰り合わせの上、ご参集賜りますよう、お願い申し上げます。

主 催 岩手大学理工学部附属ソフトパス理工学研究センター (SPERC)
農林水産ロボティクス研究グループ、実践的ロボットビジョン研究グループ

会 場 岩手大学復興記念銀河ホール

参加費 無料

日 時

第 1 回 平成 30 年 6 月 28 日 (木) 16 : 30 ~ 18 : 00

「ロボティクスソリューションと人工知能」

下田 真吾 氏

(国研) 理化学研究所 脳科学総合研究センター 理研 BSI-トヨタ連携センター

知能行動制御連携ユニット ユニットリーダー

(概要)

2017 年は「AI 元年」などと言われるほど様々な分野で AI がもてはやされた一年となり、あたかもロボットの頭脳が出来上がったような印象を受けるが、ロボットを動かすに必要な知能は AI で十分なのか、それともほかに必要なものがあるのか解説する。

第 2 回 平成 30 年 7 月 19 日 (木) 16 : 30 ~ 18 : 00

「海中ロボット技術の勘どころ」と「極限環境ロボット」

吉田 弘 氏

(国研) 海洋研究開発機構 海洋工学センター 海洋基幹技術研究部 部長

(概要)

前半では、実用的な海中ロボットとロボコンなどで勝ちを狙うロボットを比較しながら、ロボット製作の要点をレクチャーします。

後半は、極限環境で利用される海中ロボットのシステムデザインについて、実例をあげてレクチャーします。ターゲットは北極・南極です。豊かになる為に経済成長をひたすら目指してきた人類は、そのツケを払う段階にやってきました。経済=技術の構図でやってしまったことは、技術の力によって解決すべきです。地球環境を保つ為の技術について、ロ

ロボットを中心とした国際的な取り組みと、日本の取り組み状況について解説します。

第3回 平成30年8月2日(木) 16:30~18:00

「小惑星探査ロボット ミネルバII とはやぶさ2」

吉光 徹雄 氏

(国研)宇宙航空研究開発機構 宇宙科学研究所 准教授

(概要)

6月に小惑星 Ryugu に到着した日本の小惑星探査機はやぶさ2には、発表者らが開発したミネルバII という小惑星表面探査ロボットが搭載されている。本講演では、小惑星 Ryugu がどんなところで、ミネルバII がどのような探査をするのか紹介する。

ご参加いただくにあたり、特に申し込み等は不要でございますが、一般参加者からは当日受付にて名刺を頂戴いたしますこと、ご了承ください。

なお、岩手大学大学院総合科学研究科理工学専攻横断履修プログラム「ロボティクスプログラム」では、地域やグローバルな課題を俯瞰的に概観でき、各課題に対してロボットの社会実装により解決を図るために必要な機械、電気、情報分野を横断する学び(ロボティクスソリューション)を修得し、持続可能な社会を実現出来る人材を育成しています。本講演会は「ロボティクスプログラム」内の必修科目「ロボティクスソリューション総論」の一環として行うことを申し添えます。

本件に関する問い合わせ

〒020-8551 盛岡市上田 4-3-5

岩手大学理工学部 准教授 三好扶

TEL : 019-621-6357

E-mail : tmiyoshi@iwate-u.ac.jp